

再評価項目調書の比較検討資料

H20.8.4

項目	H14	H19	備考																																																												
事業名	河川改修事業：斐伊川放水路事業・大橋川改修事業 ダム建設事業：尾原ダム建設事業・志津見ダム建設事業	斐伊川水系治水事業 【志津見ダム建設事業】【尾原ダム建設事業】、【斐伊川放水路事業】	「大橋川改修事業」が消えた。																																																												
事業諸元	【斐伊川放水路事業】 施工延長：L=13.1km 掘削：V=約15,500千m ³ 、築堤：L=29.0km、護岸：A=約680千m ³ 、分流工：1箇所、橋梁：22橋3 2 堰：2箇所、排水機場：1箇所、揚水機場：6箇所、樋門・樋管：64箇所、家屋補償：437戸 用地買収：322ha 等	【斐伊川放水路事業】 施工延長：L=13.1km 掘削：V=約16,000千m ³ 、築堤：L=約4,000千m ³ 、分流工：1箇所、橋梁：25橋、3 3 堰：2箇所、排水機場：2箇所、揚水機場：2箇所、樋門・樋管：64箇所、 家屋補償：437戸、用地買収：322ha 等																																																													
	【大橋川改修事業】 施工延長：L=7.6km 掘削、築堤・護岸、橋梁、用地補償等	—	「大橋川改修事業」が消えた。																																																												
	【尾原ダム建設事業】 形式：重力式コンクリートダム、ダム高：90.0m、総貯水容量：60.8百万m ³ 、付替道路：18.3km、3 家屋補償：111戸、用地買収：392.3ha	【尾原ダム建設事業】 3形式：重力式コンクリートダム、ダム高：90.0m、総貯水容量：60,800千m ³ 付替道路：19.7km、家屋補償：111戸、用地買収：392.3ha																																																													
	【志津見ダム建設事業】 形式：重力式コンクリートダム、ダム高：85.5m、総貯水容量：50.6百万m ³ 、付替道路：20.7km、3 家屋補償：97戸、用地買収：380ha	【志津見ダム建設事業】 3形式：重力式コンクリートダム、ダム高：85.5m、総貯水容量：50,600千m ³ 付替道路：24.5km、家屋補償：97戸、用地買収：380.1ha																																																													
事業期間	斐伊川放水路事業：昭和56年度～平成20年代前半 大橋川改修事業：昭和58年度～平成20年代前半 尾原ダム建設事業：昭和62年度～平成22年度 志津見ダム建設事業：昭和58年度～平成22年度	斐伊川水系治水事業：昭和51年度～平成50年代予定 【志津見ダム建設事業】昭和58年度～平成22年度 【尾原ダム建設事業】昭和62年度～平成22年度 【斐伊川放水路事業】昭和56年度～平成20年代前半	「大橋川改修事業」が消え、「斐伊川水系治水事業」の中に没入。平成50年代予定と新たに明記された。																																																												
総事業費	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">14年度 総事業費(単位:億円)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>総事業費</th> <th>既投資額</th> <th>残事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 全体</td> <td>5,330</td> <td>3,073</td> <td>2,257</td> </tr> <tr> <td>2 志津見</td> <td>1,450</td> <td>848</td> <td>602</td> </tr> <tr> <td>3 尾原</td> <td>1,510</td> <td>592</td> <td>918</td> </tr> <tr> <td>4 放水路</td> <td>2,100</td> <td>1,610</td> <td>490</td> </tr> <tr> <td>5 大橋川</td> <td>270</td> <td>23</td> <td>247</td> </tr> </tbody> </table>	14年度 総事業費(単位:億円)					総事業費	既投資額	残事業費	1 全体	5,330	3,073	2,257	2 志津見	1,450	848	602	3 尾原	1,510	592	918	4 放水路	2,100	1,610	490	5 大橋川	270	23	247	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">19年度 総事業費(単位:億円)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>総事業費</th> <th>既投資額</th> <th>残事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 全体</td> <td>7,242</td> <td>4,122</td> <td>3,120</td> </tr> <tr> <td>2 志津見</td> <td>1,450</td> <td>1,176</td> <td>274</td> </tr> <tr> <td>3 尾原</td> <td>1,510</td> <td>925</td> <td>585</td> </tr> <tr> <td>4 放水路</td> <td>2,500</td> <td>2,021</td> <td>479</td> </tr> <tr> <td>5 (2+3+4)</td> <td>5,460</td> <td>4,122</td> <td>1,338</td> </tr> <tr> <td>6 (1-5)</td> <td>1,782</td> <td>0</td> <td>1,782</td> </tr> </tbody> </table> <p>・総事業費は5,330億円から7,242億円へと1,912億円(+35.8%)増加した。 ・放水路の総事業費が2,100億円から2,500億円へと400億円(+19%)増加した。</p>	19年度 総事業費(単位:億円)					総事業費	既投資額	残事業費	1 全体	7,242	4,122	3,120	2 志津見	1,450	1,176	274	3 尾原	1,510	925	585	4 放水路	2,500	2,021	479	5 (2+3+4)	5,460	4,122	1,338	6 (1-5)	1,782	0	1,782	<p>1. 19年度において、総事業費の不明分が1,782億円ある。 2. 19年度において、大橋川の総事業費が消えた。 3. 14年度の大橋川の既投資額23億円が、19年度から消えた。(全体の中に埋没)</p>
14年度 総事業費(単位:億円)																																																															
	総事業費	既投資額	残事業費																																																												
1 全体	5,330	3,073	2,257																																																												
2 志津見	1,450	848	602																																																												
3 尾原	1,510	592	918																																																												
4 放水路	2,100	1,610	490																																																												
5 大橋川	270	23	247																																																												
19年度 総事業費(単位:億円)																																																															
	総事業費	既投資額	残事業費																																																												
1 全体	7,242	4,122	3,120																																																												
2 志津見	1,450	1,176	274																																																												
3 尾原	1,510	925	585																																																												
4 放水路	2,500	2,021	479																																																												
5 (2+3+4)	5,460	4,122	1,338																																																												
6 (1-5)	1,782	0	1,782																																																												

事業の目的	<p>斐伊川水系は、下流に日本海との水位差のあまりない中海・宍道湖を抱え、斐伊川本川の河床は、周辺の地盤高より高い天井川となっている。このため、ひとたび洪水による氾濫が生じた場合には、宍道湖周辺の低地では浸水が長時間続き、その氾濫域は広大な面積となり被害は甚大である。</p> <p>このため、宍道湖の水はけをよくするとともに、天井川部分、宍道湖へ流入する流れを減らすため、隣り合う神戸川水系と一体的な治水計画が策定され、両水系の一体的な治水安全度の向上を目的としている。</p> <p>この斐伊川・神戸川の治水計画は、</p> <p>①両河川の上流におけるダムの建設 ②中流の斐伊川放水路事業 ③下流の大橋川改修</p> <p>の3点セットから成り立っており、斐伊川・神戸川両水系を一体とし、上流、中流、下流がそれぞれ治水機能を分担し、流域全体で斐伊川・神戸川流域を洪水から守ることとしている。</p>	<p>斐伊川水系は、下流に日本海との水位差の小さい中海・宍道湖を抱え、斐伊川本川の河床は、周辺の地盤高より高い天井川となっている。ひとたび洪水による氾濫が生じた場合には、宍道湖周辺の低地では浸水が長時間続き、その氾濫域は広大な面積となり被害は甚大である。</p> <p>このため、宍道湖の水はけをよくするとともに、斐伊川本川下流部の天井川部分、及び宍道湖へ流入する流れを減らすため、隣り合う神戸川と一体的な治水計画を策定し、水系の一体的な治水安全度の向上を目的としている。</p> <p>この斐伊川水系治水事業は、</p> <p>①両河川の上流におけるダムの建設(志津見ダム、尾原ダム) ②中流の斐伊川放水路事業と斐伊川本川の改修 ③下流の大橋川改修と宍道湖・中海の湖岸堤整備</p> <p>から成り立っており、斐伊川水系を一体とし、上流、中流、下流がそれぞれ治水機能を分担し、流域全体で斐伊川水系を洪水から守ることとしている。</p>	「3点セット」の文言が消えた。「③下流の大橋川改修」が、「③下流の大橋川改修と宍道湖・中海の湖岸堤整備」に変更。
①事業の進捗状況	<p>—</p> <p>【斐伊川放水路事業】</p> <p>○工事進捗状況(平成10年度末→平成14年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築堤：進捗率約32% → 約86% ・掘削：進捗率約11% → 約34% ・橋梁：進捗率約9% → 約36% <p>○用地補償状況(平成10年度末→平成14年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋：進捗率約99.8% → 100% ・土地：進捗率約99.5% → 約99.9% <p>【大橋川改修事業】</p> <p>○工事進捗状況(平成10年度末→平成14年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築堤：進捗率0% → 0% ・掘削：進捗率0% → 0% ・橋梁：進捗率0% → 0% <p>○用地補償状況(平成10年度末→平成14年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋：進捗率約23% → 約23% ・土地：進捗率約3% → 約3% <p>【尾原ダム建設事業】</p> <p>○工事進捗状況(平成10年度末→平成14年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事用道路：進捗率約5% → 約60% ・付替道路：進捗率約1% → 約29% <p>○用地補償状況(平成10年度末→平成14年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋：進捗率約95% → 100% ・土地：進捗率約89% → 約99% 	<p>・主要事業の進捗状況</p> <p>【斐伊川放水路事業】</p> <p>○工事進捗状況(平成14年度末→平成19年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築堤：進捗率約73% → 約78% ・掘削：進捗率約34% → 約49% ・橋梁：進捗率約36% → 約69% <p>○用地補償状況(平成14年度末→平成19年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋：進捗率100% → 100% ・土地：進捗率約99.9% → 約99.9% <p>—</p>	<p>H19で文言追加。 築堤が増加。</p> <p>「大橋川改修事業」が消えた。</p>

	<p>【志津見ダム建設事業】</p> <p>○工事進捗状況(平成10年度末→平成14年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事用道路:進捗率約61%→約88% ・付替道路:進捗率約62%→約86% <p>○用地補償状況(平成10年度末→平成14年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋:進捗率100%→100% ・土地:進捗率約98%→100% 	<p>【志津見ダム建設事業】</p> <p>○工事進捗状況(平成14年度末→平成19年度末)</p> <p>コンクリート打設:進捗率0%→約58%</p> <p>付替道路:進捗率約86%→約98%</p> <p>○用地補償状況(平成14年度末→平成19年度末)</p> <p>家屋:進捗率100%→100%</p> <p>土地:進捗率99%→99%</p>	
②事業の進捗の見込み	<p>【大橋川改修事業】:具体的計画内容を公表し、関係者の同意を得て早期に工事着手を図り、平成20年代前半での事業完了を目指す。</p>	<p>斐伊川水系治水事業</p> <p>斐伊川本川、宍道湖・中海湖岸堤の改修について引き続き事業を実施。</p> <p>大橋川改修については、ダム事業、放水路事業等に比べ進捗が遅れが見られるが、地元調整を進め早期着手を図る予定。</p>	<p>1.「具体的内容を公表」が削除。</p> <p>2.「関係者の同意を得て」が「地元調整を進め」と変更。</p> <p>3.「早期に工事着手を図り」が「早期着手を図る」に変更。「工事」が削除。</p> <p>4.「平成20年代前半での事業完了を目指す」が削除。</p> <p>上記1～4、大橋川改修事業についての表現が大幅に後退。</p>
	<p>【斐伊川放水路事業】:用地補償、工事状況とも順調に進捗しており、平成20年代前半での事業完了を目指す。</p>	<p>【斐伊川放水路事業】:用地補償、工事状況とも順調に進捗しており、平成20年代前半での事業完了を目指す。</p>	
	<p>【尾原ダム建設事業】:用地補償、工事状況とも順調に進捗しており、現基本計画どおり平成22年度の事業完了を目指す。</p>	<p>【尾原ダム建設事業】:工事は順調に進捗しており、基本計画どおり平成22年度の事業完了予定。</p>	
	<p>【志津見ダム建設事業】:用地補償、工事状況とも順調に進捗しており、現基本計画どおり平成22年度の事業完了を目指す。</p>	<p>【志津見ダム建設事業】:工事は順調に進捗しており、基本計画どおり平成22年度の事業完了予定。</p>	
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p>①、②の観点による再評価から、代替案を検討する必要がないと考えている。なお、事業の執行にあたって以下のようなコスト縮減対策を実施及び計画している。</p> <p><コスト縮減></p> <p>【斐伊川放水路事業】:大型機械の投入、護岸必要箇所の見直し、掘削残土の有効利用など</p> <p>【尾原ダム建設事業】:上流仮締切へ掘削残土を利用したCSG工法を採用など</p> <p>【志津見ダム建設事業】:堤頂構造の簡素化など</p>	<p>・事業の進捗状況、費用対効果を鑑み、継続実施が妥当であり、現状での代替案を検討する必要がないと考えている。</p> <p>・コスト縮減対策</p> <p>【斐伊川放水路事業】大型機械の投入、掘削残土の有効利用等</p> <p>【尾原ダム建設事業】グラウト基準の見直し、選択取水設備の連続サイフォン式導入等</p> <p>【志津見ダム建設事業】グラウト基準の見直し、堤頂構造の簡素化、選択取水設備の連続サイフォン式導入等</p>	<p>「斐伊川水系治水事業」の事業期間が平成50年代予定と大幅に延長され、「②事業の進捗の見込み」において「地元調整を進め早期着手を図る予定」と表現が大きく後退。</p>
便益の額	20,658億円	15,653億円	5,005億円の減。(33%の水増し)
便益の主な根拠	想定年平均被害軽減期待額:1,327億円(平成13年度価値)	想定年平均被害軽減期待額:883億円(平成18年度価値)	444億円の減。(50%の水増し)

災害発生 の危険度	【宍道湖の現況湖水位】 H.P.+3.58m	【宍道湖の現況湖水位】 H.P.+3.68m	10cm増。
	【宍道湖の改修目標水位】 H.P.+2.47m	【宍道湖の改修目標水位】 H.P.+2.50m	3cm増。
災害発生 時の影響	【浸水戸数】 約 50,700戸	【浸水戸数】 約 44,400戸	6,300戸の減。
	【浸水面積】 約 15,000ha	【浸水面積】 約 13,900ha	1,100haの減。